

エスデージャー(SDGs)つえ

千葉県

三年 宮崎 辰瑠 さん



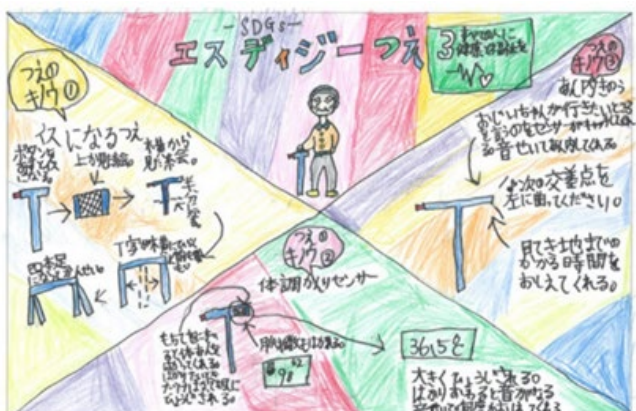
まずは、審査員特別賞受賞おめでとうございます。大きな反響があったと思います。今回、どうして、このような「つえ」を考えたのですか。

お母さんのスマートフォンから、高齢者が行方不明だつてメールが(夏休みに)来ていて、それで大人も迷子になるのが分かって。暑い外で長い時間を過ごしているのがとても心配で。みんなちゃんと見つかったりか。それで、迷子のおじいちゃんたちが、何をもっていたら見つけてもらえるかなと考えて、杖にしました。

なるほど。イメージシートには、「エスデージャーつえ 全ての人に健康と福祉を」とありますね。SDGsや「福祉や健康」について、何か学校で勉強しているのですか。

いいえ。お母さんから教えてもらいました。お母さんの会社でも、SDGsの取組をしています。そうなのですね。それにしても杖はとてもカラフルですね。

誰でも使えるオシャレなデザインにしようと思って、SDGsのロゴを入れました。あと、



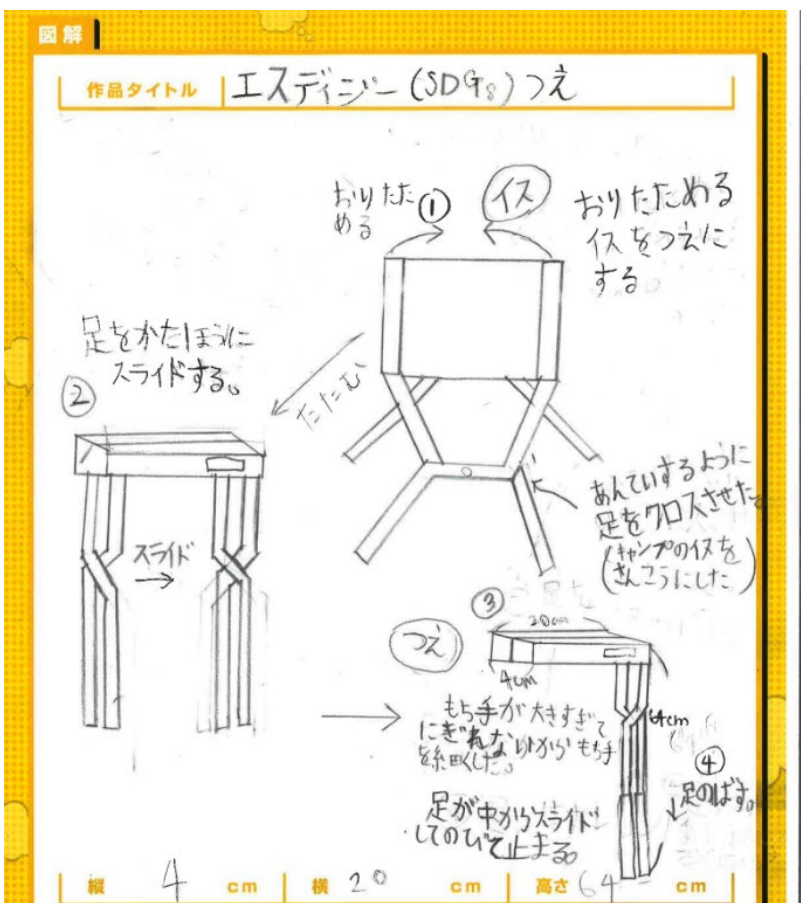
SDGsの十七色を使っています。形で工夫した点がありますか。

百円ショップに行ったら、杖が百五十円で売っていたので買いました。どういう形だと持ちやすいか、どれくらいの高さがかちょうどいいか考えました。

杖を触った事が無かったので、これを使って歩いてみたり、転んでみたりしてみました。おじいちゃんが具合を悪くすると、倒れるんじゃないかと。(母)

審査員さんが、「世界に初めての物を作ってしまった」と大絶賛されていました。普通は、ミニチュアが登場するのですが、辰瑠さんの場合は、ほぼ完成形に近い物を作られましたね。それが本当に素晴らしいです。その仕組みを少し教えていただけますか。

★シートは座面はどうやって出してくるの？



中にストローが入っています。引っ張ると紙がでてきます。紙をストローに巻いていて、それで、ペットボトルのキャップをつけて回すとしまうことができます。反対側は、内側にテープでくっつけてあります。

★脚はどうすると横にスライドするの？

キャンプに使ういが ひらめきのカギに・・・ 逆向きの発想が 功を奏す・・・

★脚はどうやって縦に伸びるの？

何かスライドするものはないかなと思っただけで見たら、部屋のカーテンの動きと同じだなと思いつきました。カーテンが動く仕組みを使いました。

た。あと、抜けないように、外の棒の内側に紙をつけて、それで中にも紙が引っかかるようにしました。

どうやってこの仕組みを思いついたのですか。

ずっと杖を見ていても椅子にならないので、椅子から杖を作ろうと思いつきました。キャンプの椅子を見ていることにしました。五つくらい見ました。

お母さん、よくキャンプに行かれるのですか。

はい、行きますよ。やっぱり、椅子をたむのって子どもの仕事というか。テントは大人が割とやりますけど。(母)

確かにキャンプ用品は、小さくして運んで、使う時に大きくしますものね。キャンプの椅子係を担当してきたおかげですね(笑) それにしても逆向きで考えるなんて素晴らしいですね。これらを考えたり作ったりするために、辰瑠さんにとっては、どのよ

うな勉強が役に立ちましたか。

算数と工作の勉強を使います。方眼紙で何センチぐらいがちょうどいいとか。

なるほど。立体を作る時に、展開図にしますもんね。組み立てたり広げたり、そういう学習があるから。

算数はもともと好きだったけど、図工は、好きになりました。

最後に、辰瑠さんは、このコンテンツに参加して、成長があったと思いますか。

はい、ちょっと成長したと思っただけです。なんか人のために考えたりとか。

人のためなんです。涙が出ました。最後、予想外の言葉を聞いて、びっくりしちゃいました。ありがとうございます。

▼あとがき▼絵で表すのは簡単でも、立体にするのはとても大変だったと思います▼「杖から椅子」を「椅子から杖」にしてしまう逆転の発想▼それを可能にするためのヒントは、彼の日常生活や体験の中に隠されていました▼夏休みの宿題として、取り組んだ辰瑠くん▼カーテンレールと椅子の仕組みに着目▼夜の十時までとか、一日に五時間とか、受験生顔負けで作品作りに没頭▼こうして、プレゼンまで一気に加速▼シャイボーイだと思っていた彼には、HONDA顔負けのターボエンジンが搭載されていました▼(YA)

アドバイザーとしてのお母さんから

元々、人前に立つことができない子だったので、ちょっと心配していたんです。略しかし、プレゼンの動画を撮る時とかは、とっても堂々としていて、むしろ感心してしまいました。プレゼンの日にはもう私なんか横にいないくらい練習してましたね。

今回参加して、HONDAさんみたいな影響力のある企業が、子どもの成長のチャンスを与えてくれているのがやっぱりすごくなって思いました。プロの司会の方に、名前を言ってもらって、その場で発表して、有名な方のインタビューを受けるなんて。一生忘れない思い出になるコンテンツですね。母としては本当に感謝しかありません。子どもは、成長したなと思います。本当に良い機会をいただきました。